瀬戸市史だより

第２号

瀬戸新製焼界隈

第七巻部会長　仲野　泰裕

瀬戸新製焼の言葉は、瀬戸に於いて磁器が焼かれるようになった江戸時代後期以降、それまで瀬戸を支えてきた陶器生産（本業焼）と、新たに興った磁器生産を分けるために用いられようになっています。しかし、これに至るまでには長い道のりがありました。

日本における磁器生産は、江戸時代の初め肥前有田（佐賀県西松浦郡有田町）において開始されていますが、良質な陶石と門外不出の製磁技術などにより、肥前磁器は、ほぼ独占的（九谷・姫谷を除く）に全国に供給されていました。特に食器を中心とする磁器製品は、陶器製品に比較してその優位性は揺るぎないものでした。それは、我々の日々の食膳をにぎわす食器をみれば明白です。このため、伝統的な陶器生産地では、大きな影響を受けており、なんとか磁器を焼きたいという理想に向けた試行錯誤が繰り返されていました。

大きな転機となったのは、肥後天草地方（熊本県天草市）で陶石が発見された事です。天草陶石は、有田・泉山陶石より硫化鉄などの含有量が少ないことから、限りなく白く、粘性に富んだ最良の磁器原料で、平賀源内（江戸時代中期の博学者一七二八ー七九）が建白書「陶器工夫書」（明和八・一七七一年）の中で「天下無双之上品」と絶賛したほどです。天草陶石が天草を除く地域で導入されたのは、肥前・三川内（みかわち、長崎県佐世保市）が早い例として知られる一方で、薩摩・平佐（ひらさ、鹿児島県川内市）、肥前・亀山（長崎県長崎市）、肥後・高浜（熊本県天草市）、網田（おうだ、熊本県宇土市）などの新たな磁器生産地が誕生しています。さらに九州を越えて東へ流通することにより、磁器素地の改良に成功したり、陶器生産から磁器生産へ転換した窯業地が知られています。

ただ、京都や瀬戸のように、天草から遠く、域内に陶石を産出しない地域においては、さらに苦渋の月日が流れており、瀬戸では江戸時代後期、瀬戸及び周辺地域で産出する複数の原料を調合することにより磁器素地の精製に成功しています。このような発想は、陶石単味で磁器素地を精

《染付松竹梅文茶碗》

享和４年（1804）口径 12.3cm

愛知県陶磁美術館蔵

瀬戸市史陶磁史篇第三巻刊行以降に新たに確認された「享和年製」染付銘、「尾張」印銘を伴う作品

製していた国内の多くの窯業地とは異なる画期的な取り組みでした。このように辛苦の末に瀬戸独自の磁器素地が開発されたことにより、瀬戸村を中心に多くの新製焼窯屋が誕生しています。さらに原料を粉砕する石粉ハタキ水車の増設など素地原料の安定確保と窯の改良など焼成技術の向上を図ると共に、蔵元制度など流通体制も整備されています。このようにして瀬戸新製焼は、江戸を始めとする多くの消費地に供給されることとなり、碗類を中心に肥前磁器を凌駕（りょうが）するまでになっています。

陶磁史篇第三巻「瀬戸の染付焼」は昭和四二・一九六七年に刊行されましたが、すでに半世紀を超える年月が流れており、その間には多くの新たな調査研究の成果が蓄積されてきました。今回編集中の陶磁史篇第七巻では、瀬戸における、磁器焼成とその発展について、旧知の文書類の再検証と共に、多くの新しく確認された史資料、多岐にわたる瀬戸関係の展覧会において新たに紹介された瀬戸製磁器作品群や生産地と消費地遺跡出土資料の比較検討などを踏まえ、全体をできる限り時系列に沿って構成し、瀬戸における磁器生産について理解を深めていただける内容としています。

史資料調査報告

令和７年度は七巻部会・八巻部会双方で史資料調査を行いました。七巻部会では徳川林政史研究所へ、八巻部会では国立国会図書館や愛知県図書館、個人所有の新規史料の調査・整理を行っています。

以前の瀬戸市史編さん委員会で集めた史料は、近世文書を広く集めており、七巻（瀬戸染付焼開発に関する江戸時代の内容）に活用できる史料は数多くありますが、新たな史料については調査を進め、瀬戸市近世窯業文書集の発刊で公開してきました。加えて尾張藩側の史料や、民吉九州修業に関する史料については、新たな調査が必要と考えられるため、徳川林政史研究所へ熱田前新田開発に関する史料で瀬戸村と関係のあるものや、初期染付にまつわるものを探しましたが、今のところ新たな歴史的事実を明らかにするような史料を確認することはできませんでした。しかし、江戸時代後期の瀬戸物流通商人に関する史料を発見できたので、その調査を進めているところです。

現在発刊されている陶磁史篇は六巻ありますが、その記述は近世の陶磁史までとなっており、近代陶磁史について書かれたものはありません。このため八巻は近代以降の瀬戸陶磁に関する内容となっており、これまでの調査による資料の蓄積はありますが、市史編さんに伴い再度資料の見

直し作業が必要となっています。この資料の再調査を行うため、国立国会図書館や愛知県図書館では、主に明治時代に開催された内国勧業博覧会に関する史料調査を行いました。明治時代の史料の多くは国立国会図書館デジタルコレクションなどＷｅｂ上で見ることができますが、一部の史料は現地調査が必要です。今年度の調査は、現地調査が必要と判明した史料を中心に行いました。

また、個人所蔵の史料調査も行いました。明治二十年代～大正時代の窯屋史料です。現在整理を行っていますが、明治中期～後期の瀬戸の陶磁生産の実態を知る上で重要な史料となりそうです。しかしながら膨大な量のため計画的に整理を進めていく予定です。

瀬戸市史編さん委員会開催結果

《第三回》

日程：令和七年四月二十三日（水）

委員長のあいさつの後、令和六年度に開催された第七巻部会及び第八巻部会の結果報告が各部会長から行われました。

八巻の内容は多岐にわたるため分冊することが決定されました。上・下巻で分けるか、八・九巻で分けるかについては部会で再度検討したあと委員会で協議する予定です。

部会通信

《第七巻部会》

日時：令和七年四月四日（金）・十月八日（水）・十一月五日（水）・令和八年二月十八日（水）

令和六年度に作成した章立て案をもとに執筆準備をしています。部会では進捗状況の報告を行いながら、歴史的認識など疑問点のすり合わせを行い、史料も使用しながら改めて近世瀬戸焼の歴史について協議を重ねました。

また、徳川林政史研究所をはじめとする関係機関への史料調査や、委員による勉強会も開催しています。

《第八巻部会》

日時：令和八年二月二十七日（金）

明治時代を中心に通史的な歴史について上巻に、瀬戸で作られた様々なジャンルのやきものについて下巻にまとめる形で分冊する意見がまとまりました。

また、史料調査として国立国会図書館や愛知県図書館での調査を行いました。明治時代の窯屋史料の調査も平行して進めており、今後は史料精査を行う必要があります。

瀬戸市史編さんスケジュール

	主な動き
令和8年度	6月　第8回第七巻部会・第5回第八巻部会 12月　第9回第七巻部会・第6回第八巻部会 3月　第5回市史編さん委員会
令和9年度	6月　第七巻仮原稿提出、全委員へ共有・第7回第八巻部会 10月　第10回第七巻部会 12月　第8回第八巻部会 3月　第七巻部会入稿原稿締切・第6回市史編さん委員会
令和10年度	6月　第11回第七巻部会・第9回第八巻部会 12月　第12回第七巻部会・第10回第八巻部会 3月　第7回市史編さん委員会
令和11年度	6月　第13回第七巻部会・第八巻上巻仮原稿提出、全委員へ共有 8月　第七巻校了 10月1日　第七巻刊行 12月　第11回第八巻部会 3月　第八巻上巻入稿原稿締め切り・第8回市史編さん委員会
令和12年度	6月　第12回第八巻部会 12月　第13回第八巻部会 3月　第9回市史編さん委員会
令和13年度	6月　第14回第八巻部会・第八巻下巻仮原稿提出、全委員へ共有 12月　第15回第八巻部会・第八巻上巻校了 3月　第八巻下巻入稿原稿締め切り・第八巻上巻刊行 ・第10回市史編さん委員会
令和14年度	6月　第16回第八巻部会 12月　第17回第八巻部会 3月　第11回市史編さん委員会
令和15年度	10月　第18回第八巻部会 12月　第八巻下巻校了 3月　第八巻下巻刊行

瀬戸市史だより
第２号

発行：令和８年３月 17 日
編集：瀬戸市史編さん委員会事務局（瀬戸市文化課）
愛知県瀬戸市西茨町 113-3
TEL：0561-84-1093　Fax：0561-85-0415

市史編さんに関する情報は随時 HP にアップします。右の QR コードからご確認ください。